

友好都市 北海市で交流を深める 八代市ジュニア友好派遣団



▲北海市第五中学校の皆さんと一緒に記念撮影

八代市ジュニア友好派遣団が12月20日から25日まで、本市の友好都市である中国・北海市を訪れました。

両市は平成8年に友好都市を締結以来、行政や市民によるさまざまな分野での交流を通じて、国際的友情の広がりや相互理解を深めています。

団員は市内の中学生9人に引率教諭などを加えた14人。生徒たちは北海市第五中学校で英語や体育の授業、餃子づくり、交流会、記念植樹、市内家庭でのホームステイを体験し、現地中学生をはじめ北海市民の皆さんと積極的にコミュニケーションを図っていました。

また、北海市図書館では日本語図書贈呈を行いました。北海市の景勝地であるシルバービーチや古い街並みなどを見学し、同市の歴史や文化についての理解を深めることができました。

農業生産法人で初の受賞 ニッポン新事業創出大賞



▲受賞商品の「ミツバチポーヤ」。郵送しても蜂が死なないように設計されている



受賞報告に訪れた西岡千年代表▶

日本ニュービジネス協議会連合会主催の「第9回ニッポン新事業創出大賞」のアントレプレナー部門で最優秀賞を受賞した「蜂の郷にしおか」の西岡千年代表取締役が12月16日、市役所を訪れ、中村博生市長に受賞報告をしました。

「アントレプレナー部門」は経営者のアントレプレナーマインド(起業家精神)や事業の革新性・実績評価、経済・社会・地域への貢献度などが審査されます。

同社が開発した商品は、巣箱に女王蜂のフェロモンを入れ、女王蜂がいなくても働き蜂が働く段ボール製の巣箱。より短い受粉交配期間、小規模施設に対応できることから、農業の6次産業化や果物などの輸出時代を牽引する可能性のあるベンチャー企業との評価を受けました。

西岡代表は「これからもミツバチの重要性を発信していきたい」と語りました。

八代初の女子プロ野球選手 東北レイアへ入団



▲活躍を誓う松村朱咲選手

女子プロ野球「東北レイア」への入団が決定した、八代市出身の松村朱咲選手が1月6日、市役所を訪れ中村博生市長に入団の報告をしました。

松村選手は市内の小・中学校を卒業後、鹿児島県の神村学園高校に進学。2年次から中堅手のレギュラーとして活躍し、50m6・8秒の俊足を活かした守備と走塁が持ち味です。昨年11月に滋賀県で行われた合同トライアウト(選抜テスト)では、守備範囲の広さをアピール。シートノックやシートバツティング、紅白戦などでも力を発揮し、見事合格しました。

中村市長は「厳しい世界だが、地道に努力を重ね活躍してほしい」と激励。松村選手は「オフの間に体力を付け、開幕したら俊足を活かしてタイトルを取りたい」と抱負を語りました。

目標とされる選手に オリックスバファローズへ入団



▲活躍を誓う小田裕也選手

プロ野球オリックスバファローズへの入団が決定した、八代市出身の小田裕也選手(日本生命)が12月25日、市役所を訪れ中村博生市長に入団の報告をしました。

小田選手は市内の小・中学校を卒業後、九州学院高校、東洋大学に進学しました。俊足巧打の外野手として大学選手権では2年連続の日本一に貢献。才能が一気に開花した4年次の春にはベストナインに選ばれました。50mを6秒で走り、遠投は110mの強肩で、全日本大学野球選手権大会やプロとの試合でホームランを放つなど、走攻守の三拍子そろった選手として期待されています。

盗塁王を目指す小田選手は「開幕から一軍で活躍し、目標とされる選手へと成長したい」と抱負を語りました。

最高齢108歳 おめでとうございます



松本 ミツノさん
(千丁町)
明治40年1月10日生

現在、施設で暮らしているミツノさん。千丁町に生まれ育ち、同じ町内のいぐさ農家の人と結婚。8人の子どもに恵まれ、夫とともに朝から晩まで働いて大家族を支えました。料理の味付けがとても上手で家族を喜ばせたといいます。3度の食事と家族の面会を楽しみにしているというミツノさんの長寿の秘訣は「仏さんがここまで生かしてくださいただけです」。

第5回 まなびフェスタやつしろ



▲書道体験を楽しむ小学生

12月13日、まなびフェスタやつしろが千丁文化センターなどで行われ、多くの人で賑わいました。これは、学びの場や発表・活動紹介の機会を設けることで、市民の生涯学習への意欲を高め、学習活動への参加を促進するために開催されているものです。同センターでは講演会やダンスの発表、書道体験などが、また隣接するいぐさの里公園では松ぼっくりを使ったミニツリーづくりやどんぐりのストラップづくりなどがあり、参加者は各コーナーを回って体験を楽しみました。

代陽幼稚園児が防火パレード



▲防火縄を振りながらアーケードを防火パレードする園児たち

12月12日、代陽幼稚園の全園児30人と教諭保護者らが中心市街地一帯で、火事が増える年末に向けて火災予防を呼びかける防火パレードを行いました。同幼稚園は平成20年7月に幼年消防クラブへ加入。恒例行事としてほぼ毎年実施しています。防火法被姿の園児たちは「絶対に火遊びはしません」と誓った後に出発。防火ティッシュや住宅用火災警報器のチラシを配りながら本町アーケードや市役所前などを通り、拍子木の「カチカチ」という音とともに大きな声で「火の用心」と呼びかけていました。

100歳 おめでとうございます



湯野 フミさん
(平山新町)
大正4年1月4日生

現在は施設で生活しているフミさん。高田で6人きょうだいの1人娘として生まれ育ち、同町の人と結婚。家事などの合間を縫っては趣味の手芸を楽しみ、子どもたちの服を手作りしました。笑顔が素敵なフミさんの長寿の秘訣は「食べ過ぎないことや牛乳をよく飲むこと、果樹園の作業で山道をよく歩いていたこと」。



野本 フサさん
(鏡町)
大正3年12月15日生

鹿児島県湧水町で生まれ育ったフサさん。同町の人と結婚し、8人の子どもに恵まれました。子どもたちにおいしいものをお腹いっぱい食べさせたいとの思いから鏡町に移り住み、農業で生計を立てました。夫婦2人でひたすら仕事と子育てをがんばってきたというフサさんの長寿の秘訣は「子や孫などへの深い想いがあったから」。

おめでとう1216人の新成人 八代市成人式



▲再会を喜び合う新成人のみなさん

1月11日、厚生会館で「八代市成人式」が開催され、約800人が出席しました。本市の新成人は1216人(男592人、女624人)です。式では、新成人12人が成人式実行委員を務め、自主企画で実施しました。中村博生市長が「一人ひとりの繋がりが希薄化している中、日本がより良い国として発展し続けるためにも、思いやりの気持ちを持ち続けて欲しい」と激励。実行委員の蓑田実花さんが新成人を代表して「家族や友人など周囲の人に感謝の心を持ち、頑張ってください」と決意を述べました。また屋外などでは、友人との久しぶりの再開を喜び合う姿が、たくさん見られました。新成人の本郷安華さんは「短大を今年卒業して販売員になります。これから自己責任になるので親から自立した社会人になりたい」と語りました。



青年海外協力隊としてバングラデシュへ



▲表敬に訪れた安道侑希さん

平成27年1月から2年間、JICAボランティアで南アジアに位置するバングラデシュに派遣が決まった日置町の安道侑希さんが12月25日、市役所を訪れ中村博生市長に出發の報告をしました。

安道さんは教員養成所の指導員として算数と理科を指導する予定です。また、大学時代に習得した教育行政の知識を活かし、異国の地で起る事象を分析し、日本との違いなどを勉強していきます。

安道さんは「教育の他、国づくりや人づくりにも貢献していきたい」と抱負を語りました。

松高会から寄附



▲左から永原副市長、鞍本事務長、中村市長、笹尾理事長、中田評議員、一村会計

12月25日、松高会の笹尾秀敏理事長ら4人が市役所を訪れ、教育・文化の発展に役立ててほしいと寄附金を市へ贈呈しました。

同法人は、公益法人制度改革に伴い、財団法人から一般財団法人へ移行。財産の一部を公益事業に支出することから、今年度分40万円の寄附を行いました。今後173年かけて6920万円を寄附する予定です。

中村博生市長は「学校図書購入費として活用します」と話し、笹尾理事長は「松高の農家の土地を貸して得た収益金ですので、地元のために使っていただければ」と希望していました。

塩崎真コーチ野球教室



▲グローブの出し方を指導する塩崎真コーチ

12月23日、八代市出身でオリックスバファローズの2軍コーチを務める塩崎真コーチの野球教室が八代市民球場で行われ、八代市郡の中学生約150人が参加しました。

八代地域のレベルアップを図り、地元からプロ野球選手の輩出を目的に開催され、守備や走塁、バッティングの指導などが行われました。

走塁では、ケースに応じた走塁の仕方やベースの踏み位置をクイズ形式で、バッティングでは、下半身の使い方やバットをスムーズに出す方法を学びました。選手たちは指摘された内容を考えながら練習に励んでいました。

モグラ打ちのツト作り



▲指導を受けながらツトの持ち手部分を作る子どもたち

1月11日、伝統行事のモグラ打ちで使用するツト作りが千丁公民館駐車場で行われ、約40人の親子

が参加しました。

千丁校区まちづくり協議会の主催で、今回で2回目になります。

まず稲わらを集め、紐で固く巻いて棒状にします。持ち手部分を輪っかにした後、ビニールテープで巻いて完成です。

とまどう参加者に、老人クラブ会員が手本を見せたり、一緒に作業をするなどして和やかな雰囲気で行われました。北野遼くん和西条偉楓くん(千丁小5年)は「紐で巻き付けるのが難しかったけど、楽しかった」と話しました。

八代こども科学フェア



▲二足歩行ロボットを巧みに操縦し、見事側転に成功

1月10・11日、やつしろハーモニホールで八代こども科学フェアが行われ、2日間で約3千人の

親子連れが来場しました。

これは、子どもたちにもものをつくる喜びや科学の楽しさを感じ、関心を深めてもらおうと、市工業振興協議会と市が毎年行っており、今年で18回目です。

子どもたちは「二足歩行ロボットの操縦やクレーンゲームに挑戦したり、キーホルダーの製作などを楽しみ、できあがったものをうれしそうに家族に見せていました。

郡築一番町の友田大翔くんは「二足歩行ロボットの操縦が一番楽しかった」と笑顔で話しました。

御田植祭



▲「鍬」に見立てたカシの枝で田起こしを演じる小林緑郎宮司ら

1月3日、八代神社で新春恒例の「御田植祭」が行われ、地元の農家ら約100人が集まりました。

これは、江戸時代から300年続く伝統行事で、五穀豊穡を祈願する祭りです。午前7時から拝殿で小林緑郎宮司らが、カシの枝を「鍬」に、松の葉を「苗」に見立て、田起こしから苗植えまでを執り行いました。

拝殿には、農地に立ると豊作になるといわれる松葉、鏡餅、木造の牛頭などが供えられ、待ち構えていた農家らが神事の途中から、我先にと奪い合いました。